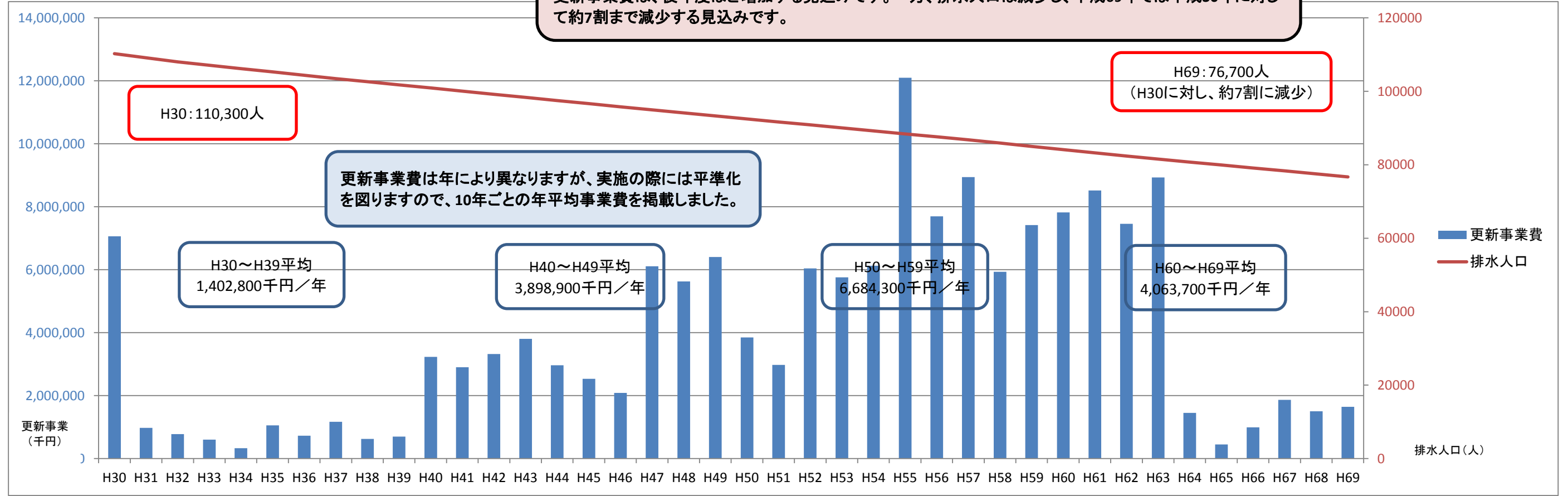


【下水道事業の試算結果】

■ 「目標耐用年数」による施設の更新需要、及び排水人口の見込み

平成30年から平成69年まで、40年間の施設更新事業費(青の棒グラフ)と排水人口(赤の線グラフ)の見込みを示しています。  
更新事業費は、後年度ほど増加する見込みです。一方、排水人口は減少し、平成69年には平成30年に対して約7割まで減少する見込みです。



■ 収支見通しと借入金残高の見込み

上段の更新事業を実施した場合の収支見通し(青の線グラフ)と借入金残高(緑の線グラフ)の見込みを示しています。  
収支見通しでは、平成59年で資金不足が発生し、平成69年の資金不足額は約120億円に達する見込みです。  
借入金残高は、平成69年で約730億円となり、平成30年の約2倍となる見込みです。

